

2011年5月3日

天候:晴れ

温度:20°C

湿度:44%

風:なし

放射線量:0.08  $\mu$  Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝:各自

昼:うどん

夜:炊き込みご飯、ハンバーグ

氏名:原田生知(薬剤師)

体調:良好

### 《行動日誌》

6:00 本部発

10:00 釜石入りし釜石駅前ローソンで昼食購入。

釜石駅前を過ぎ、市街に入ると津波による生々しい傷跡があたり一面に広がる。  
ひしゃげた車多数で津波の爪で引きずりまわされたような建物跡が続く。  
大槌町までの海岸沿いの市街地はほぼ同様の光景であった。

11:00 大槌高校着し沖津医師に挨拶。

引地医師は往診中とのことだったが10分後に戻られた。  
引地医師の案内で早速診察室へ行き薬局業務を担当していた井出薬剤師(長野)、安藤薬剤師夫妻(東京からボランティアで参加)に挨拶。  
午前診察受け付けは 11:30 までとのこと業務引き継ぎは午後となった。  
なお、本日は好天に恵まれ、ゴールデンウィークでもあるため受診者は少なめとのことだった。

12:00 2階物理科学教室で昼食。引地チームからそうめんをご馳走になる。

当方より青森医師会チームへリンゴ2ケース差し入れ。引地チームに東京より参加の看護師がおり、リンゴの差し入れ大好評であった。  
因みに2階物理科学教室が青森と長野の支援チーム宿泊場所である。  
長野チームは本日午前で帰還。明日夕方に交代チーム到着とのこと。  
リンゴ産地でライバルの長野チームにもリンゴを差し上げてささやかな交流とした。

13:00 午後は 13:00 から 16:00 まで診察時間。

安藤薬剤師夫妻より西村薬剤師とともに薬局業務を引き継ぐ。  
引地医師の意向で薬局業務は薬剤師にお任せするとのこと。  
但し、薬局業務は長野チーム、ボランティア薬剤師と連携して実施して欲しいと要望あり。  
薬局業務は引き継ぎレポートにあった通りで臨時短期処方調剤、交付および薬剤管理であった。

午後の受診者は7名ほどで 15:00 以降は前日受診者の調剤薬交付が中心で7~8名に薬の説明と交付を実施。基本的に慢性疾患に対する処方がほとんどであった。

15:00 弘前市医師会よりボランティア参加の八木医師夫妻(桔梗野こどもクリニック)到着。

県医師会の南医師もいらっしゃり、町田社長によろしくお伝えくださいとのことでした。  
午後は患者数も少なめだったため、医師の方々に当社災害支援チーム記録 DVD をお渡し

するとともに情報交換の時間も多とることが出来た。

なお、工藤課長(総務担当)は城山体育館へ沖縄県医師団チーム訪問。

16:00 診察終了

16:10 大槌高校発 釜石市で行われる釜石地区災害支援対策本部会議に引地医師、八木医師夫妻、原田、西村、工藤が出席。

この災害支援対策本部会議は各地区の患者動向報告会である。

特筆すべき報告事項はなかった。

会場で薬剤師会代表の中田薬剤師と沖縄県医師会チームに挨拶。

17:40 災害支援対策本部会議終了

18:00 大槌高校着、夕食も引地チームにご馳走になる。

なお、本日は青森県医師会の南医師主催の映写会が 16:00 から視聴覚室で開催されており 22:00 に終了予定とのこと。

引地医師、八木医師夫妻は 8 時より名作「フラガール」観賞中。

22:00 消灯予定

氏名:西村宜朗(薬剤師)

体調:良好

## 《行動日誌》

6:00 弘前本部を出発

わざわざ見送りに来てくれた人、グリーンフェスティバルの準備をしていた人に見送られ、会社の代表で行くことを再認識しながら本部を後にした。

東和町までの高速道路は対向車が多く、我々の向かう方向はそれほど混んでいなかった。帰省客や観光客が多いのだろう。

東和町で高速道路を下りると数kmおきに「がんばれ岩手」「支援ありがとう」の看板がある。

被災地に対する関心の高さ、被災地近隣住民の気持ちの強さが伺えた。

それとともに同じ方向へ向かう車が増えてきた。ナンバープレートを見ると関東ナンバーが多い。

ボランティアなのかどうかは不明だ。

釜石に入り初めて実際の被災地を目の当たりにした、本当にすべて壊れている。

震災から2ヶ月近く経ってもまだまだ先が見える状況ではないと思われる。

復興支援に対する継続した強い思いが、まだまだ必要と感じた。

11:00 被災している街を抜け大槌高校に到着、大槌の町も釜石と同じ状況だ。

先に入っている青森県医師会チーム(引地医師チーム)、長野県医師チーム、東京薬科大安藤先生夫妻より指示、引き継ぎを受け昼休みへ。

引地医師チームが親切にも着いたばかりの私たちの分の食事と一緒に作ってくれてうどんをいっしょに食べた。

今までの支援隊が残っていた食材を利用できるため多少の食料持参で間に合いそうだ。

余ったものがどんどん増えている状況のようだ。

13:00 東京薬科大安藤先生より教えを受けて午後の業務。

診療所内には多くの在庫があるのだが、偏りがあるため患者さまの希望を完全にはかなえることは難しいようで、在庫のない長期処方多くは、他の地域薬局へ処方薬の調達を依頼しており、15:00頃処方せんを取りに来て、翌日以降に処方薬を届けてくれる。

届けられた薬を私たちが説明して渡す。

院内では3~4日の短期間分の薬を出す。

16:00 診療終了

釜石での災害対策会議にオブザーバーで参加。

会議ではボランティア医師によりそれぞれの受け持ち地域の状況と問題点を発表し地元医師がそれに答える形となっている。

会議の最後には地元薬剤師会より現状と要望の話があった。

要望の内容としては、処方医へのジェネリック医薬品への変更への理解、不足薬に対する現状への理解を求める内容であった。ボランティアへ来て私たちの周りには薬剤師に対して非常に協力的である。処方提案や確認、変更に対してすぐに対処してくれる。大きなチームとしての仲間意識なのかもしれないが、通常の薬局業務でもこのような関係を築きたい。

18:00 帰ってから食事。

基本的には青森県医師会チームと一緒に食事をとるようだ。

あいた時間は医師チームと談笑。

今日は被災地の現状に驚き悲しくなったのだが、

親切な医師チームにより様々な面で助けられた1日だった。

氏名:工藤源造(総務担当)

体調:良好

《行動日誌》

12:00 大槌高校到着し、申し送り、その他

13:00 昼食

13:00 城山体育館に向け出発

道路状態が悪く思いのほか時間がかかる。

(城山体育館は、町内の高台にあり周りが津波の被害に全て遭っているため)

13:40 城山体育館に到着

沖縄派遣部隊を探す、避難所の中だった。

代表の沖縄県医師会庶務課長の城山氏に挨拶状とリンゴ2箱を渡す。

快く受け取っていただき避難所内を見て回った。

被災地の中心にあるため未だにかなりの人数が避難している。

診療所の外来数も大槌高校の倍近く来るように思われた。

15:30 大槌高校に到着し、診療所内を見学。

16:00 診療終了

釜石市の災害対策本部ミーティングに向かう。(オブザーバー参加)

18:00 帰着にて業務終了。